

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	相原高校新築工事	階数	地上4F
建設地	相模原市緑区橋本台四丁目1711番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	800人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	学校集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2016年8月1日
敷地面積	23,673 m ²	作成者	株式会社 多摩設計
建築面積	7,575 m ²	確認日	2016年8月1日
延床面積	16,167 m ²	確認者	株式会社 多摩設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建物は本館棟を中心にプロムナードを南向きに向け各棟をつないでいる。北側から4階建ての本館、3階、2階建ての実習棟と順番に並べることで周辺への景観・環境に配慮した。豊富な緑地による景観形成を実施し、敷地内環境へ配慮した植栽計画としている。また、LED照明によるランニングコスト低減をはじめ、自然採光の利用や、日射遮蔽など、自然エネルギーの積極的な採用にも配慮した施設計画としている。		0
Q1 室内環境 教室の昼光率3.0%以上確保し、自然採光を積極的に取り入れた明るい空間としている。また、カーテン、庇の組み合わせによりグレアを制御している。内装は全面的にF☆☆☆☆を採用するとともにVOCについても測定を行う。	Q2 サービス性能 バリアフリー新法を満たしている。各教室の用途に合わせ壁、床は、防滑性、耐熱性、防汚性のある仕上げを採用し維持管理に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に通路などの空地を設けることにより風の通り道を確保している。植栽、中高木の設置等、敷地内環境へ配慮した植栽計画としている。
LR1 エネルギー ・断熱性能に配慮した建物外皮の計画を実施 ・LED照明など、高効率な設備機器を採用	LR2 資源・マテリアル ・別が容易なG L工法、LGS壁工法、再利用可能なOAフロアの採用	LR3 敷地外環境 ・駐輪場を整備し、建物周辺に共用駐車場を整備 ・風下となる地域への環境に配慮し隣接間隔を確保した

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される